

やまなしライフサポート

LS YAMANASHI LIFE SUPPORT

NEWS LETTER 3号 2014年4月発行
NPO 法人やまなしライフサポート
〒400-0836 甲府市小瀬町 654
山梨カトリック福祉センター
TEL/FAX 055-241-2545
E.Mail yls@mx6.nns.ne.jp
ホームページ http://www6.nns.ne.jp/~yls/

想像力と問題解決力を養いつつ



「山梨県には本当にホームレスの人がいるのですか？」

活動報告という形で学校や団体、講座等で講演をさせて頂く度に、帰りにこっそりと近づいてきて、真剣にそして心配そうにこう問いかけてくる方がよくいます。きっと善意のある良

い方で、困っている人のお役に立てばと願ってはいるのですが、日本の社会に潜んでいる悲しい差別や不平等、また考えられないような不運な境遇に置き去りにされてきている方々の悲惨な現状を想像することが出来ないのです。なんとなくこんな疑問が沸いてくるのでしょうか。

3年ほど前、元気のいい青年新聞記者が突然炊き出し会場にやってきて、「変わった仕事をしている人々取材して特集を書いているのですが、橋の下や公園にいるホームレスに弁当を配布しているというのは本当ですか?」、「なぜそんなことをするのですか?」。当時はスタッフもいなかったもので、一人で甲府市と笛吹市にある3つの橋にいる方々に炊き出しの弁当を配布しておりました。矢継ぎ早の質問にうまく答える自信がなかったので、同行を許可しました。彼は薄暗くなりかけた荒川のある橋まで私の後を追いかけてきて、弁当を渡すまでの私とSさんとの対話を見えないところからこっそり聞いていました。

やまなしライフサポートが組織的に活動し始めた2010年度には36名、2013年度は16名、これが年に1回県から発表されるホームレス実態調査結果の実数です。厚生労働省・国土交通省の告示に基づき全国で決められた日程と方法により、全国の都道府県及び市町村が実施し

報告された数です。

しかし、2013年度一年間で実際にライフサポートが支援させて頂いた路上生活の方々数は、公園や橋の下、車上で暮らす方々28名、県内の警察や病院、それに福祉行政機関を通してライフサポートの緊急一時宿泊施設の利用を依頼された路上生活の方々数は40名。合計しますと、2013年度だけで68名のホームレスと呼ばれる方々と関わり何らかの支援に繋げることが出来たこととなります。年に1回の調査結果、16名とはかけ離れた数値であり、全国各地の数値も実情とはかなり異なることが容易に想像できるわけです。

県外から徒歩で山梨にやってきて、空腹と疲労の為に路上で倒れ、警察や病院を通して市町村の福祉課の支援に導かれた方々。10数年もの間県内で人に見つからないように路上や車上で苦勞してきた方々。年齢は24歳から77歳まで面談を通して分かることは、山梨が実は出身地だとか、以前長く山梨で暮らしたことあるという人々が意外に多いことです。

発見できないために、人間の権利として受けられるべき支援から漏れている方々、弁当や必要な物の配布、巡回健康相談などの支援は受け入れてくださるが、本人にとって緊急に必要と思われる病院への同行や生活保護申請、住宅確保のための支援等を頑固に拒絶し続けている方々。やまなしライフサポートの定款にある、「路上生活者の生命と人権を守り、彼らに対する偏見と差別をなくすために働く」、を念頭において、想像力と問題解決力を養いながら頑張りたいと思います。

(やまなしライフサポート理事長 中山八十司)

2013年度の主な活動実績

炊き出し	2,916名(50回)	医療機関同行	122名(102回)
路上生活者面談	1,052名(262回)	生活保護申請同行	69名(58回) 受給49名※
緊急一時宿泊	58名※(461泊)	ハローワーク同行	41名(36回) 就労18名※
健康相談	389名(89回)	年金事務所同行	5名(3回) 受給3名※

(※印は実数、他は延べ人数)

緊急一時宿泊施設 ライフ荘

開設後 1 年間の状況

2013年5月に笛吹市石和町内に個室3部屋を設けました。
路上生活の方等が、生活保護受給や年金支給によって安定した住まいが確保できるまで2週間を目途として、生活の基盤や食事等を提供しています。
この1年間に58名にご利用いただき、平均滞在は7.9泊でした。



利用者状況(下半期の一例)

利用月	年齢 性別	宿泊数	状況
10月	54歳 男性	14日	検察庁からの紹介(不起訴処分)。拘置施設を出たが身を寄せるところなし。就労支援し、県外に就職。
11月	70歳 男性	18日	峡南にある役場からの紹介。路上生活でかなり体調を悪くしており、通院同行支援。役場と連携し救護施設に入所。
12月	33歳 男性	8日	警察署からの紹介。勤務先のトラブルで解雇され、路上生活していた際に不審者として警察に通報された。生活保護受給後、就職決定。
1月	73歳 女性	12日	地域包括支援センターからの紹介。矯正施設出所後、温泉施設に宿泊していたが所持金なくなった。認知症の疑いあり地域包括と協力し養護施設に入所。
2月	58歳 男性	2日	公園駐車場での長期車上生活者。2年程前から弁当配達等支援してきたが、健康状態悪化したため通院同行。その後生活保護受給決定しアパートに。

利用者の声

【Dさん 男性・54歳】

知人宅に居候しながら警備関係の会社に勤めていましたが、知人といざこざが発生し、昨年9月に知人宅を飛び出しました。この時に携帯電話とバイクのカギを知人に取りられ、会社に連絡できなかったため解雇されてしまいました。

自殺目的で静岡県のK駅まで歩いて行きました。そこで知り合った人に、「自殺するなら地元でやりな！」と言われて山梨に戻り、I町の橋の下でホームレス生活を始めました。

今年の1月下旬、橋の下にいた時に県の人(?)に「そこから出ていけ」と言われ、次の場所を探しましたが見つかりませんでした。困り果ててI町の役場に相談に行きました。

役場ではライフサポートを紹介してくれて、ライフ荘には入ることになりました。大雪の前で凍えずに助かりました。ライ

フ荘には生活に必要なもの(テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、寝具等)が備わっており、3度の食事も提供してもらいました。

ライフ荘での2週間の間に生活保護の申請をしたり、役場の人にアパートを探してもらっていました。2月下旬にアパートが決まり引っ越しました。福祉事務所やライフサポートからは新居での生活用品の面倒も見てもらいとても助かりました。

その後、ハローワークで求職活動をした結果、以前やっていた溶接関係の仕事が見つかり、3月中旬から働くことになりました。新しい仕事で頑張っており、二度とホームレスにならないようにします。ありがとうございました。

スタッフより～新年度に向けた抱負

木村輝三(事務局長)

皆さん こんにちは！

2008年の「炊き出し」をはじめから今日まで多くの皆さんとの出会いがありともに喜び、また 苦しみを分かち合えるともだちができたことに感謝！！

真の神は泥んこの中におられることを信じて。



芦沢信(相談員)

昨年4月に相談員となり、多数の困窮者の方と接してきましたが、福祉制度の谷間に多く人がとり残されていることを実感しました。

来年4月より生活困窮者自立支援法が施行され、困窮者に対する相談支援の重要性が一層高まります。相談支援活動は、ひとつの NPO で完結できるものではなく、行政・医療・司法・他の NPO 等、多くの機関や団体との連携があって初めて成り立つものです。新年度は、より幅広く且つ強固なネットワークづくりを目指したいと思います。



宮坂菊代(看護師)



ライフサポートの仕事に関わって、あっという間に1年が過ぎました。

路上生活をしている方、生活保護を受給しアパート暮らしを始めた方、ライフ荘に入所されている方などを巡回訪問してきました

が、Kさんには1年間欠かさず毎週訪問しました。自力で橋の下で生活し、厳しい自然と向き合いながら、決して多くを望まず穏やかな表情で規則正しい生活を送っています。いつも私の椅子を用意待っていてくれます。最初の頃の緊張がうそのようです。今後は、現在中断している医療機関受診につながるよう勧めながら、環境を整えられたらいいなと思っています。

毎週木曜日の炊き出し会場での相談は、健康について、というよりも雑談しながら多くの人とふれあい楽しい時間を過ごしています。これからも多くの人に支えていただきながら、私も少しでも支えることができたらなと思います。

竹田司(ふれあいサロン・ライフ荘管理スタッフ)



サロンを利用する皆さんにお茶、軽食、シャワー、洗濯等を提供しています。また、就労に役立つよう、ふれあい農場での農作業(耕運・肥料まき・水遣り等)に参加をお願い一緒に汗を流しています。

トマト、玉ねぎ、サツマイモ等季節に応じていろいろ育てています。収穫した野菜はサロンや炊き出しの食材として活用しています。

作業中は、利用者との信頼関係が育まれるように、笑顔と同一目線で接しています。雑談を交えながら、どんなサポートが必要なのか聞き出すようにしています。一步二歩と前進してくれることを信じて。

末木玲子(管理スタッフ)

昨年10月より会計のお手伝いでお世話になっています。今年度から火曜日、金曜日の週2日勤務することになりました。河西さんと一緒に会計事務を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

河西(管理スタッフ)

私は、利用される方が安心して来られるように笑顔でお迎えしています。

昨今、世の中は大変な生活状況に陥っています。それも大人社会だけでなく子どもたちにも貧困のしわ寄せが及ぶ時代です。“明日は我が身”と、いつ生活状況が大変になるかわかりません。そういうことをいつも心がけながら、利用される方の立場になって安心してご利用いただけるようサポートしてまいりたいと思っています。

軽ワゴン車を購入しました

この3月、日本財団の助成を受け写真の軽自動車を購入しました。早速、見守りパトロール、行政機関や医療機関への同行等に活用しています。冬季に弁当配達をスクーターで行っていたため、せつかくの暖かい料理が冷めてしまうことがありましたが、これも改善できる見込みです。



パーソナルサポーター養成講座開催

2013年11月16日(土)、山梨県立文学館にて今年度第1回目の講座を開催しました。名古屋市で、炊出し、自立支援アパート、医療相談所、デイサービス施設等を運営する、NPO法人ささしま共生会より医療巡回相談員(看護師)の東岡牧様を講師としてお招きしました。

40名の参加者に対して、公園や河川敷を定期的に訪問し、路上生活者の血圧等健康状態の確認をすると共に、様々な相談に対応している状況が多く事例路交えて報告されました。

参加者からは、「東岡さんの熱意、情熱に打たれた。」「『私のやりたい支援』ではなく、その人の立場に立った支援が大切だとよくわかった。」「小さな働きが大きな力になることを願いつつ活動していきたい。」等の意見が寄せられました。



第1回養成講座

また、2014年3月8日(土)には第2回目の講座を、カトリック甲府教会にて開催しました。当NPO 中山理事長の「活動状況と課題」についての報告に続き、当NPOに関連する3団体から、それぞれの活動状況が紹介されました。

毎週木曜日の炊き出しに食器を提供いただいている **NPO 法人スペースふう**の理事長永井寛子様からは「リユース食器で循環型社会を」、炊出しのお米の炊飯に協力いただいている **甲府食事サービスをすすめる会**前会長の松村仁子様からは「今後のボランティアの姿を考える」、在山梨外国人を支援する **多文化社会の保健医療を考える会**代表の長坂香織様からは「多文化社会のサポーター」というそれぞれのテーマでご講演いただきました。

今年度も2回の講座を予定し、支援者の拡大に努めてまいります。

物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より伺いますのでよろしくお願いいたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ
小型テレビ、電気炊飯器、
電気ポット、自転車

ボランティアさん募集

当NPOの活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後2時～5時(一部でも可)、甲府カトリック教会にて
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。

2. 見守りパトロール

- ・毎月第4日曜日 午後2時～4時30分頃 甲府カトリック教会集合
(8月、12月は夜間パトロールとなります)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

	年会費	
会員(当団体を支援し、活動に参加してくださる方)	個人 3,000円	団体 5,000円
賛助会員(当団体の活動を応援してくださる方)	個人 3,000円	団体 5,000円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://www6.nns.ne.jp/~yls/information.html>)からダウンロードすることができます。また、お電話いただければ郵送させていただきます。